北海道政策研究会

道内調査 in 空知
調 査 報 告 書

2013 年 7 月 31 日-8 月 1 日

小熊院長を囲んで記念撮影（砂川市立病院）

木　村　峰　行（団長）
田　村　龍　治
稲　村　久　男（事務局長）
笹　田　　浩
佐々木　恵美子（副団長）
高　橋　　亨
北　口　雄　幸
沖　田　清　志

北海道政策研究会

視 察 の し お り

日程表　　第１日目　　７月 31 日（水）

行き先等	時　　間	日　　程　　等
ホテル集合	14:30	砂川パークホテル集合（チェックイン）、朝食付 6,500 円程度 （JR 砂川駅横　電話 0125-52-3989）
地域医療の状況調査	15:00 ～	砂川市立病院（電話 0125-54-2131） 地域医療の状況及び課題等について視察調査 （中空知地域センター病院、がん拠点病院、救急救命センターなど）
意見交換会及び懇談	18:00 ～ 20:00	市立病院関係者と意見交換と懇談（5,000 円程度） 小熊市立病院院長、事務局長ほか

日程表　　第２日目　　８月１日（木）

行き先等	時　　間	日　　程　　等
ホテル発、移動	09:30 ～	砂川パークホテル出発（自動車に分乗）、夕張市へ
夕張市役所着	11:00 ～	夕張市における再生団体の現状と課題について調査 鈴木夕張市長、厚谷夕張市議ほか
昼食	12:00 ～	昼食（夕張市内）
解散	13:30	夕張市内で解散

【調査結果報告書】

１日目　７月３１日（水）
◆砂川市立病院（地域医療の状況及び課題等について視察調査）

砂川市立病院（小熊豊院長）は、中空知地域センター病院及び地域救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院など、中空知地域の拠点病院である。診療科は 22 科を有し、90 名の医師を確保し、一日当たり 1,467 人（入院 394 人、外来 1,073 人）の患者を診察し、年間 4,190 件の手術をこなし、年間 2,504 件の救急車を受け入れている。

小熊院長からのお話では、「砂川市立病院は、110 名の医師体制で病院を新築しており、現在の 90 名の医師数であるが、月 20 名の出張医が固定化されれば、当初予定の 110 名の医師数となる計算だ。そして、現在でも年間 600 日間を地域医療機関へ出張診療しており、110 名から 120 名の医師数になれば、この地域での理想的な医療体制が可能になると考えている。」と、地域医療を確保するために、日々努力している様子がうかがえた。さらに、医師確保の秘訣を伺うと、「医師のモチベーションを高めることが大切だ。そのためには、診療機器の更新や学会への派遣など、やりたい医療をやらせることが大事なのだ」とお話しされた。

さらに小熊院長は、「今後、高齢化の中で、急性期医療とともに、慢性期の患者をどう対応するかなど、課題は山積している。医療、療養、介護、在宅などが、一体となった取り組みが求められている」と熱く語られ、これからの課題を的確に表していると感じたところだ。

２日目　８月１日（木）

◆夕張市（再生団体の現状と課題について調査）

夕張市は、平成 19 年 3 月、353 億円の長期負債を抱え、財政再建団体に指定され、平成 18 年度から平成 36 年度までの 18 年間で、この赤字を解消する計画を樹立した。この計画の中では、1)徹底した行政のスリム化と事務事業の見直しによる歳出の削減、2)税率の見直しによる市税の増収を図り、公営住宅などの受益者負担の見直しによる収入増対策を講じ、歳入の確保、を図ることとしている。

その後、平成 21 年 4 月に「地方公共団体財政健全化法」が施行され、「財政再建計画」から「財政再生計画」へと移行し、新たな財政再建への道を歩み始めた。この間、赤字解消は順調に推移しているものの、この計画そのものが職員の給与削減が主体でたてられているため、平成 18 年度には 260 名だった職員数は、平成 25 年度では半数以下の 103 名で行政を運営していることとのことだ。しかも、その主要な業務を派遣職員で対応しており、現在は北海道 13 名、市長会 4 名（札幌市、旭川市、石狩市、岩見沢市、各 1 名）、東京都 2 名の 19 名にのぼり、全職員数の 2 割に達する状況である。このことに対し、「行政本来の業務を他の市町村の派遣でよいのか」といった意見が出され、人材育成の視点からも、新規採用を国に求めているが、理解を得られるに至っていない。さらに、職員の人件費についても、給与で 20%削減、手当で年間 1 ヶ月分削減など、職員のモチベーションがあがらないばかりか、中途退職職員が後を絶たず、人材確保に苦労しており、「職員に対しても、トンネルの先の光を見せることも必要だ」とのご意見もいただいたところだ。

今後、これらの課題を整理し、夕張市とも連携しながら、国に対し粘り強い働きかけと、北海道に対しても現状に対し更なる支援を求めることなどを確認したところだ。